人和盟スルモ無益ト云フベシ我党ハ多數ノ弱兵ヲ得ンヨリハ寧ロ少數ニテモ強兵ヲ得ンヲ望ム
過失者アリテ党名ヲ汚ス云々ト云フモ仮令ハ今日政府官吏中職ヲ誤ルモノアレハ之ニヲ免職シ是ヲ政府ニ
ヒモナシ我党員モ之ニ同様ニテ我党ノ希望ニ背キ党名ヲ汚スカ如キ行為アルモノハ除名スルノ党則ナリ故ニ除
名ヲハ則チ我党ヲ汚スナリ然ルニ今無形ノ結合ト成リシ乎只私交上ニ存スルモノナレハ甲ハ乙ト交際セハ改
進主義ノモノナルベシ然ルニ乙ニ不都合ノ事アラン二甲モ通同シタルモノナルベシト嫌忌ヲ招クニ至ルモ其時ハ衆多ノ
人間ヲ一々ハ甲ハ乙ト絶交シタリト報道スルカ到底ナシ得サルヲナルベシ斯ノ論ヲ来レハ大隈諸氏ノ脱党ハ徹頭徹
尾強人ノカヲナル挙動ニテ年一年ニ國會開設ノ期ニ迫リ恰モ今日ハ改党ノ留ヲ培養スル秋ナルニ大隈諸氏ハ勉力医ム
ヘカラスト云ヘシ我等ハ折角政党ノ苗ヲ植ヘタルモノナレハ大木トナス迄ハ飽迄モ培養スルノ意有リ必ラス列席諸氏モ御同
意ナリト思ハル亦余ハ河野氏ト倶ニ修進社ニ詰メ毎日面會スルモノトシハ余カ意ヲ極言シタルモ遂ニ納ラサリシ
明治十三　通常人ハ民間ニ在テ民權ヲ唱ヘ政府ニ入ハ官權ニ愛スルニ大隈河野西氏ハ曩ニ廟堂ニ在テハ民權家ノ風アリ
今日民間ニ在テハ民權ヲ厭ハルヽノ風アリ實ニ稀ナル英雄ナルモ当今所見ヲ誤リ世上ノ笑ヲ被ラルヽハ余ト雖モ
遺憾ニ堪ヘサル所ナリ只如何セン一身ノ利害ヲ為ンニ脱党セラレタルナリ

別紙ニ記ス通リ脱党者トハ相成リ
申候ヘ共ハ多ク考ヘ出ス事ハ雷撃ノ如
明治十七年十月　板垣退助
栃木縣士族
警視廳

[illegible]

今回大坂ニ開ク自由党秋季會ノ為メ各地党員同町ニ集合論議ノ概略

一本月廿二日本會ヲ開クノ前片岡健吉ナル者會員ニ示シテ曰ク此度ノ會ハ曾テ御通知セシ如ク開會前諸君ト熟議ヲ遂ケ其上公然ト届出開會セント思ヘリ其故ハ兼テ御承知ノ通リ是迄議決セシ事項ノ一ツモ行ハレス為メニ總理モ脳ヲ痛マシ諸君ノ約束ヲ履マサルヲ切歯シ居リ而シテ此際尚ホ総理ノ言フ所ハ今度ハ篤ト評議シ若シ出金スルヿ能ハザレバ夫ニ應シタ事ヲ議シ人ガ不適當ナレバ其人ヲ代ヘル可シ實ニ是迄ノ會ノヨウニテハ到底計画セシヿモ遂ケ難シトノヿナリ兎モ角明日ハ北新地芝居街周防屋（相撲館移轉ノ所）ニテ相談致ス可シ云ヘリ夫レヨリ翌日一同右場所ニ集合解党ノ可否ヲ討議セシニ岩手、岡山、新潟

等ノ党員ハ解党スベシ解党セハ進テ居ル地方ハ却テ熱度ヲ
増シ一層ノ働ガ出来ル哉モ知レヌトテ解党ヲ賛成シ又富山
神奈川千葉三河岐阜等ノ党員ハ未タ幼稚ノ地方ニアリテハ
解党ノ聲ヲ聞カハ其儘眠ルカ如クナラン依テ解党ハ可ナリ
是非自今非常ノ奮発ヲシテ維持法ヲ立テントスヒ又伊豫高
知大坂丹波等ノ党員ハ解党ハ欲セサルモ之レヲ拒ム時ハ費用
ヲ出サル可カラス然ルニ自今ノ不景氣地方困難ノ場合ナレバ金
策ノ術ナク依テ如何シテモ維持法カ立ザレハ形体ヲ幾分カ減縮
シ中央本部ヘ通信委員ノ二名位モ置キ暫ク間解党丈ケハ
見合セタシ云ヘ（以上大別セシモノ故一ニ誤謬ナキヲ保セス）ト三説ニ分
レ論々トシテ其日ニ纏マラス遂ニ廿四日廿五日ノ両日モ重モニ此議ニ渉
リ結局揔理ノ意見ヲ聞カントスフヿニナリ同廿六日一同相輝館
ニ集合シ揔理板垣モ臨席セリ先ツ板垣衆ニ向テ遠路態ト
来坂セラレシヲト大ニ之ヲ慰シ且ツ曰ク予モ當地ニ到着スルヤ
翌々日ヨリ脳病ニ罹リタレハ諸君ノ来訪セラレシ方ヘモ面會セサ
リシ故ニ御挨拶ニ及フヲ々ト夫レヨリ坐ヲ更タメ予カ今日諸君ニ向
テ御話シ申ス処ハ能ク御聞キ置メルヨウ致シタシ偖予揔理ノ
任ヲ持シテヨリ以来追々計画セシフアリシモ今ニ行ハレス其行
ハレサル所以タル他ナシ諸君即チ今此席ニ臨ミタル諸君カ行ハ
サセナイ訳ニテ予ハ行フヿノ知シ能ハ地方諸君カ約ヲ違ヘテ行ハサセ
ナイトヲスベシ既ニ前會ニ於テモ度ヒ揔理ノ任ヲ解カレンヿヲ望ミタ
シモ今度ハ必ラス拾万圓金ヲ寄セルカラト云フテ予ヲ止メ而シテ
其拾万圓ガ如何ニト思ヘハ案ノ如クニテ四万圓ニ下リユヒコウ達ハセス又
ト云フテ終ニ其地方ニ帰リシニ又達約シ漸ク高知ト新潟トヨリ
四千圓ツヽ神奈川ヨリ千圓（此額ハ聞達トアルモシレス）其他少ニツヽ出金ヲ集メ
千圓餘リトナリシモ揔計僅カ壹万餘圓ナレバ迚モ計画セシヿヲ遂

クル能ハス凡ソ天下ノ大事ニ任シ國家ノ改革ヲモナサントスル者カ些少事故ヲ言ヒ立テ、決約ヲ履行セザル故作遺憾我党ヒ弥ミ今日ハ解散セヲバナラヌ又場合トナリ諸君カ過日来評議セラル、処ヲ聞クニ目今地方ハ非常ニ不景氣トカ云ハル、モ此不景氣ノ前ヲ出来ナイモノカ今日不景氣ヲ口實トスルハ予甚ク欲セサル処ナリ依テ断然解党トセヲバナラン併シナカラ若シ解党ヲ好マス形丈ケニテモ置ク方カ利益ガアルトスレバ幹事持ナト云フヨウナコトニシ各地ノ通信等ヲ引受ケ且ツ篤志家カ各地方巡回等ヲスル時ハ其相談ニ等ニ與ルコトニ致シタシ又予ノ捻理ヲ解カレタ上ハ党員ノ資格ヲ各地ヲ巡回シ又タ諸君ト共ニ働クベシ斯ク云ヘハ何カ捻理ヲ解カサルモ働クコトニ代リナク却テ捻理ノ名ヲ存シ幹事持チニスル通信等ノコト扱カハ、大ニ利益トカ便利トカ云フ人モアランナレモ予ハ自重自尊カハ知ラサルガ幹事ニ代テ通信委員トナルコトハ欲セズ此時

苦笑予ノ捻理ヲ辞スル訳ハ右ニ述ヘル如ク捻理トセシモ肝要ノ働クヘキ器ヲ備ヘサルヨリノコトナリ彼ノ改進党ノ如キ死物同様党員ノ増減ヲ報告スル位ノモノ素ヨリ欲セサルナリ猶ホ為会諸君ニオ話シ致シヲキ度キコトハ若シ解党トナレバ是迄本館ニテナマシ借財モアレバ之レカ支拂ヲセヲバナラズ亦タ新聞社ト有一館ノ費用ニ置キ度ク然ルニ目今新聞社ノ費ノ不足スル一ケ月三百四有一館ノ費用一ケ月百四ニテ都合四百四ヲ要スル而シテ之レモ堪ヘ難キトアレバ少シ手軽キコトアリソハ星亨ニ僅カ貳千程ノ相当トシテ彼ノ旭橋活版部ヲ渡シアレバ之レヲ取リ戻ス時ハ毎月利益カ貳百五拾四程アルトノコトナレハ右四百四モ僅カ百五拾四足セヨキヨウノモノナリ是レハ只タ諸君ニ念ヲ入レ置クトシテ猶ホ最初ニ溯リ解党ノ事ヲ申サンニハ最ニ当地ニアリシ立憲政党ヲ解ク折リ当地自

由事ニ於テ小島忠里ガ予ニ向テ自由党モ解テハ如何ト言ヒシカ予ハ大ニ駁シメリ一体立憲政党ノ解党セシ訳ハ第一政党カ数種アレバ党派ト党派トノ軋轢ヲナシ行進ヲ忘ルヽカ如ク且ツ表面上ノ一ニテ範圍外ニ出テヽ働ラクヿ叶ハス解党スレバ存分裏面ノ行為カ出来ル様ト云ヒシカ実ニユレラハ冷カ説ト云ハサルヲ得ス予ノ解党ヲ唱フルハ前ニモ言ヘル如ク因今其器具ヲ備ヘス譬ヘハ魚ヲ飽フニ水カナレト云フ様ナ吾党ハ他党ニ比スレハ餘程進テ居リ所謂肥馬ハ書ヲカマスフカ出来ス吾党負ハ精神ニ於テハ他ニ譲ラス決心モヨシ謂ユル骨ハヨイカ肉カ無ク詰リ肺病人ノ如ク精神ハヨイカ働クヿ能ワストヽ云フ有様ナレハ不得止解党スルモノヽ諸君定メテ其侭眠テシマウヨウノヿハアルマジ一時解ケテモ他日合同ノ日ヲ期シ且ツ夫レ迄ニハ充分ノ器具ヲ備ヘラレンヿヲ欲スルナリ又元来國家ヲ改革セントスルヨウナ大任ニ当ル吾党負諸君ハ最初良心ニ問フテ起キシモノナラン然レハ必ラスシモ利害ヨラザルベシ抑モ良心ニ問ヒ以テ起ケシモノ故従ヒテ結果ト云フモノモ無カルベカラス即チ起因結果ヲ御心得アルヿナレハ他日合全一致ノ日ヲ待ツハ左程ニ永キヿモアルマジ又中ニハ中央集權（東京本部ヲ云フナルベシ）ハ欲セス地方分權トシ一個一個ニ行ハル方ヨカラン抔ト云フ人モアルナレ共中ニ分ケ分ケニテハ行ヒ難シ予ハ以前ヨリ経験セシヿアリ随分維新革命ヲ為ストテ浪人カ分リ分リニナリテヤリカケテモ遂ニ行ハレシヿナシ当時予ハ江戸詰ニテ在リシ中村勇造ト云フ者外一人ヲ予カ抱ヘ置キシ折勇造ナル者最早而ヘ煎示ニ依リ暴発ヲスル抔ト云ヘリ予ハ其志ヲ賞賛スルモ到底遂ケ得ヘカラザルヿトシ大ニ戒メ置キ其后帰國スルヿニナリシカハ西郷ニ頼ニ勇造ヲ薩摩ノ屋敷ヘ入レ置キシ

其後勇造ナル者蜂起シテ強盗ヲ働キ其他悪事ヲ露顕シ
且ツ薩摩ノ屋敷ニ居ルヿカ分リシヨリ其レカ為メト云フニモ
アラサルベケレド遂ニ薩摩ノ屋敷ハ打チ焼カレタルヨリコレカ初
メトナリテ追ヽ革命ヲナスヿニ歩ヲ進メタリ他ニイクツモ独立
浪人ノ事ヲ成シ遂ゲサル残念ナリ而シテ浪人モ之レガハ迚
テモ良キヨウヲ見ル迄キト思ヒ合同ニ心ヲ傾ケ大藩ニ依ラス
バトテ結局薩長土カヲ極メタルヿニ至リコレハ井戸端話ニセラレ
ヨ一体鮮党モ一時ハヨイカト思フハ今ヲカ拙理トナリ居リテ
奔走セバ段ヽ法則等厳重ニナルベキモ鮮党トナレバ或ハ緩ガツク
カモ知レズ又メ金ノ充分出来テ運動カツクヨウニナリ諸君モ
カヲ極メテ行フヿナレバ最早僅カノ専制政府カ編シタル法律
モ之ヲ制スルヿ能ハサルベク随テ外国ノ侮リモ受ケザル様ヽ
ナラン日本ニモ斯ノ勢カノアル政党カアラハ自ラ対等權ヲ

得ベシ而シテ今ノ政府ハ独逸ノ政略ニ倣ルカ吾党ハ仏
蘭西ノ法ニ倣ハン仏国ハ信仰ノ国ニシテ亜細亜ノ美麗ハ常
ニ眼ヲ着ケ居レリ現ニ予ノ洋行セシ時分モ支那ヘ手
ヲ出スヿ即チ戦争ヲ開ク等ノヿガ分リ居リシ故帰朝ノ際
古澤ニ其話ヲシテ戦争ハ必ラス有ルト云フヿヲ含テ書ク
ヨウニ（自由新聞記載ノヿカ）指圖シテ置キタリ当時ノ新聞ヲ
見レバ能ク知ルベシ云ヽ又曰ク予ハ仏国ニ心アル故西行ノ折同
国ヲ目指シタリ然ルニ予ノ洋行ノ始末ニ付テハ憐レサハ御
話シヲスルモ恥ハシ訳ニテ行ク時戸倉庄三郎氏ヨリ僅カ五
千円出金シテ貰フ筈ニテ其内若干円ヲ携ヘ衣服ハ出発
ノ際新タニ一枚ヲ拵ヘ（一枚ハ古衣ヲ携帯セシ位ナレハ仏国
ヘ着セシモノヽ金ノ乏キ故通辯ヲ雇フルヿ能ハズ偶ヽ留
学生ノ予ノ貧苦モ厭ハズ航海セシヲ感シ来テ通辯ヲシテク

タリ又タ情レニモ衣類ニ垢カワキテ光ルヨウニナレバ古衣ヲ
着テ之レヲ洗濯サスル程ニテ有名家ニ會シ或ハ度〻ノ招待ヲ
受ケテ饗應セラルルモ貧ノ為メ答礼スル能ワズ実ニ充分ノ
憂リヲ果サス帰国セレハ遺憾ト云フベシ殊ニ戸倉氏ヨリ
五千四ノ残金ヲ跡ヨリ送リ呉レル筈ノ電其金ハ東京ニテ
新聞社ノ方ヘ用イタレバ予ハ不得已佛国デ或ル銀行ヨリ
金ヲ借リテ稍ク帰リ又其金ノ返償モ竹内氏ノ周旋ニ家屋
ヲ質入ニ渡マシタル有様ニテ実ニ難儀トモ何トモオ話ニナラヌ
次第ナリシ云〻又曰ク予カ帰朝ノ際諸君ニ云ヒシ如ク予ノ
佛国デ紹介セシ東洋ノ事情ヲ彼国新聞ニ記載シ貰フコト
同国ノ政治且ツ法律博士ヲ政府ニ雇ヒ入ルヽ半額ニテ五
党ノ招キニ應スベシオノコトニテアリシモ尓来決行スルヽ成ラス
実ニ惜シキ訳ナリ尤モ之レヲ行フニハ予ノ側ニ洋学ノ出来ル

者ニ三人居ラザルバナラズ兎ニ角今日ハハヤ言行一致杯ト云フ
コトハ何シヘカ飛ヒ去リシモノト見ヘ有一館カ出来タナレバ金ヲ
出スト云ヒ其有一館カ立テバ地方ハ不景気デ金カ拐ハヌトカ
何トカ云ヒテ実ニ困ル次第ナリ併シ此話ハ井戸端トシ此場合
ニセラレヨ尚ホ解党如何ノコトハ御熟考ノ上オ答アリタシ云々
トテ話ヲ止メ直ク自分（板垣）ノ旅宿ニ帰レリ例ノ之レヨリ
旅宿ヘ大和ノ戸倉在三郎ヲ招キ相談ノ上自由党中ノ資
産家即チ讃岐ノ鈴木傳五郎久保財五郎其他ト共モニ
何カ事業會社ヲ起ス見込ミナリト
右板垣ノ談話中此事カ熟レ（カ取極リタル上公然ト届出テ
會議ヲ開クヨウニ致度実ハ會議ヲ開クニモ及ハサルナレ共夫
レデハ心配ヲスル者モアレバ公然開會スル方ヨロシカラン併シ開ヒタ
トテホンノ解党可否丈ヲ議ス位ノコトト致度云々ト云ヒシ由

廿七日ハ党員ハ解党云々相談ヲ遂ケ総理ニ答ヘントテ相
輝館ニ集會セリ
一幹事佐藤貞幹ノ話ニ本部會計ノ方ヲ極節倹ニスレハ今
四ヶ月十五ヶ月ハ維持シ得ラルベシ波ノ新潟高知神奈川
其他ノ出金内幾分カ残リ居レバナリ寄附金ト稱ヘシ分ガ星
ノ手許ニハ千圓（此話ハ誤リナランカ也モ星ノ主唱金五々ノイヲ云フモノカ）程アル是レヲ用ユレハ又一時ハ持
チ對ユベシト又同人ノ話ニ常ニ総理ノ言ニ居ル処ハ政府吾党ノ為
ノ厳重ナル束縛法ヲ設クル由ナレバ若シ餘リニ六ヶ敷ナルト一時党
ヲ解カ子バナラスヨウニナルモ知レズ云々ト
會員評シテ曰ク解党ノ上ハ東京新聞（自由新聞）社内ノ通信
委員ヲ置キ各地ノ通信注復ヲ扱カハシメス今迄ノ重立ナタル
者ハ成ルベク各地ノ巡廻ヲシ一層醸金ニ手ヲ尽サスベシ云々又曰ク
自今政府探偵ヲ一層厳密ニスルナラン故ニコナラヨリモ遠ク

手ヲ廻シ密ニ内幕ヲ探リ出シ云々又云ク今后我党員ハ可成洋
服ヲ着スルヨウ致シ度シ未タ日本ニテ洋服ヲ着テ居ル人ハ官員
ト思フ者多キ故警察官ハ大ニ氣ヲ緩フスル云々又今後ハ演説
懇親會等ヲ盛ニシテ衆目ヲ驚カサン抔云々ト
新潟縣ノ党員森山信一曰ク此會ノ了レバ諸士ト謀リ減租請
願ヲナスベシ政府若シ條例ヲ以テ説諭シ採用セザレバ時
機ニヨリ腕力ニ訴ヘ退カズシテ死スベシ實ニ今日ヨリ減租請願
ヲナスノ日ナリ人民ノ感覚大ナラン民心ヲ引キ入ルハ今日ニアリ云々
一内藤魯一曰ク苅羽ノ暴烈弾ニハ政府モ驚キタル由何ニテ
モ着々ヤラ子バ行リテ吾党ノ勢力ヲ示シ最早如斯法律ハ適セ
ズ改正セ子ハナラン又國會ヲ開クニモ餘程注意シテ開ラキ餘リ
小兒視シテハ却テ大害ヲ醸スト云フ位ニ政府カ怖レヲ抱クヨウ
致シ度シ云々ト

大木権平戯レニ云フ東京横濱間ノ汽車ニハ貴顕カ屢々乗ル故アノ間タニ仕事ヲセバ隨分行ルベシ云々ト

別紙明治五年ニ付通達ヲ以テ

明治十七年十一月

細川藤孝殿

有栖川宮熾仁親王殿

警視廳

如ク準平ナルモ戚シ三ヲ乗ジテ導僚間ノ気事變ニ乗ジ[illegible]

々求ル故アノ間タニ仕事ヲセバ随分行ルベシ云々ト

右ハ新聞ニ掲載[illegible]

明治廿三年十一月三日　[illegible]

[illegible]

大阪ニ於テ開ク自由党秋季會ニ會合セシ人名

高知	川本篤馬
仝	寺田常実
仝	荒尾南達
仝	下元正樹
仝	前田南山
仝	西山志澄
仝	片岡健吉
仝	植木枝盛
仝	森脇直樹
仝	奥宮健之
阿波	堀格太郎
仝	植木毅一
仝	平野友輔
神奈川	山本典七
仝	石坂昌孝
仝	山口俊太
和歌山	今村[illegible]之郎
仝	土橋秀吉
大和	稲[illegible]秀重
仝	森[illegible]太三郎
仝	吉[illegible]
仝	玉[illegible]郎
岩手	鶴飼[illegible]郎
仝	[illegible]一郎
富山	稲垣示
仝	金田[illegible]
仝	釜頻[illegible]
仝	廣水豊四郎
仝	清[illegible]
石川	棟[illegible]
山口	松本[illegible]馨
新潟	山[illegible]三
仝	新[illegible]
岡山	中山喜[illegible]
岩手	伊藤金次郎
石見	寺井文次郎
仝	益田[illegible]
仝	益[illegible]吉
石見	米田和一
仝	小原[illegible]
長野	柳澤五郎
大阪	八代大輔
美濃	山本吉兵衛
仝	菅井三八郎
愛知	宮田仁造
仝	村雨[illegible]十
仝	平岩隆三
仝	相馬政徳
仝	吉田直雄
備後	戸谷正寛
越後	本間一
仝	[illegible]山[illegible]
仝	猪俣信作
下総	板倉羽中
仝	井上[illegible]幹
茨城	野上球平
岐阜	堀部[illegible]部
讃岐	福[illegible]
高知	小島[illegible]校
三重	服部留之[illegible]
仝	後藤輔三郎
仝	石井四郎
仝	上出人吉
福井	安立又三郎
高岡	内藤四郎
東京	佐藤貞幹
仝	小林樟雄
京都	溝口市次郎
仝	堀内[illegible]
仝	田中直[illegible]
仝	田部叙信
仝	安田音四郎
富山	直原守次
下野	関口[illegible]之[illegible]
宮城	佐藤珍[illegible]
島根	小川一[illegible]
栃木	塩田貞[illegible]
仝	[illegible]

大坂ニ於テ開ク自由党秋季會ニ會合セシ人名

高知 川本篤馬
仝 寺田宗実
仝 荒尾角造
仝 下元正樹
仝 前田南山
仝 西山志澄
仝 片岡健吉
仝 植木枝盛
仝 森脇直樹
仝 奥宮健之
丹波 堀格太郎
仝 植木数一
神奈川 平野友輔
仝 山本典七
仝 石坂昌孝
和歌山 山口俊太郎
仝 今村政次郎
大和 土橋秀吉

大和 稲辻秀重
仝 森田秀吉
仝 吉村大三郎
仝 玉重格郎
岩手 鵜飼節郎
仝 昆惇一郎
富山 稲垣示
仝 金瀬義明
仝 釜田喜作
仝 廣瀬鎮之
仝 清水豊四郎
石川 棟案芳映
山口 松本惟繁
新潟 山嵜卓三
仝 新喜太郎
岡山 中山喜代次
岩手 伊藤金次郎
石見 寺井文次郎
仝 益田本郷
仝 益田邦吉

石見 米田松一
仝 小原鉄臣
長野 柳澤五郎
大坂 八代大輔
美濃 山本吉兵衛
仝 菅井三八郎
愛知 宮田仁造
仝 村雨案山子
仝 平岩隆三
仝 相馬政徳
仝 吉田道雄
備後 戸谷正寛
越後 本間集
仝 大山信一
仝 猪俣羽作
下総 板倉中
仝 井上幹
茨城 野上球平
岐阜 堀部松太郎
讃岐 福本資弘

高知 小島稔
三重 服部富之助
仝 後藤輔三郎
仝 石井四郎
仝 上出又吉
福井 安立又三郎
三河 内藤四郎
東京 佐藤貞幹
仝 小林樟雄
京都 溝口市次郎
仝 堀内良
仝 田中直亮
仝 田部敬信
仝 安田音四郎
岡山 直原守次
下野 関田嘉七郎
宮城 佐藤珍次
島根 小川實一郎
栃木 塩田貞造
仝 法木癸

大木権平議ニテ東京横濱間汽車[illegible]
ヲ求ル故アリ間タニ仕事ヲセバ随分行ルベシト云々ト

[illegible]

騒擾拠点内申
自由党秋季會ノ概略

明治十七年十一月四日　内閣書記官

太政大臣三條實美殿

左大臣熾仁親王殿

參議大木喬任殿

參議山縣有朋殿

内務省

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

參議伊藤博文殿
參議西郷從道殿
參議井上馨殿
參議山田顯義殿
參議松方正義殿
參議川村純義殿
參議福岡孝弟殿
參議佐々木高行殿

別紙大坂府警部長大浦兼武より電報ヲ
以通信電閲ヲ
明治三年第十号

内務大輔 大久保利通

之條太政大臣殿

内務省

十月廿一日大坂府大浦警部長ヨリノ電報

去ル十三日京都平安会堂ニ於テ大坂新報社員等ガ開キシ演説中社員高橋正右エ門カ近頃不祥不吉ノ政党カ京都ニ入込ミ居シリ云々ト演ヘタルヨリ紫溟会員熊本縣士族中邑又彦小谷井素孝等高橋ニ迫リ右不祥ノ政党ハ紫溟会ヲ指シタルモノニアラスト云ヘハ其書面差出スヘシ云々論争ノ末今午前十一時新報社内ニ於テ中村ハ袖ニ納シ居ル石ヲ以テ高橋ヲ打チ聊カ負傷セシメタリ今取調中モ公平ノ処置ヲナス見込ナリ御心得ノ為メ報シ置ク

鳶ノ者共人力車夫ノ集會

本月廿日午後第五時ヨリ神田万世橋外三軒茶屋福田亭ニ会スル者左ノ如シ

出席員

谷　茂樹　林　包明　河野廣中

宮部襄　奥宮健之　照山俊三

藤　公治　坂本昇　久野初太郎

植木　某　中村　某

此外人力車夫ノ方

兩森　真澄（元池月真澄トカヘシモノ）　三浦亀吉　小笠原某　九名等

ヲ始メ車夫并鳶頭等四十名計リ

奥宮健之ノ演説アリ

曰ク人力車夫ハ即今鉄道馬車ノ為メニ大ナル困難ヲ蒙レリ此馬車ハ専賣免許同様ニテ天下ノ大道ヲ一人用ユルガ如シ大ナル荷車ハ大通リノ端ヲ行クヿナラズ中央ヲ行クヿナラズ通常ノ馬車ハ先キニ荷車アラハ後ヨリ来ルモ先キニ行クヿナラズ然ルニ鉄道馬車ニ於テハ自由ニ往復セリ此馬車ヲ英仏ニ用ユルモ都ニハ不用都ノ外ニテ用ルナリ即今食物店共車夫結合シテ鉄道馬車ヲ都外ヘ退ケンヿ第一ノ急務ナリ云々

前条ノ主意ヲ保返シ陳述シテ偏ニ人力車夫ノ歎心ヲ得ントスルモノヽ如シ

熙山俊三曰ク博奕ハ法度ナレ𪜈官吏ニテモ米相場ヲ為スハ博奕ナリ云々ト述ベ博奕ヲ公許シテ差支ナキトスフ意ヲ述フ

小笠原某曰ク人力車夫一同品行ヲ正シクシテ田舎人ヲ不欺社會ノ信用ヲ得テ鉛々ノ権利ヲ得ルニアリ云々ノ意ヲ述フ

右三人ノ演説畢リテ傍入自由新聞ヨリ自由魁ト廿日ノ傍入自由新聞ニ十部ヲヒキモノトシテ出ス

右相済ミ十時頃退散ス

一自由新聞記事ニ今ハ全ク植木林檎任シ居シリ中江ハ全ク義託セザルノヲ新聞ニ名前ヲ掲ケタル由吉湖モ全ク八百託セザルヨシナレ共之レハ板垣ヲ強テノ依托ヲ先ツ新聞ニ記名セシ儘ナリトスフ中江ハ外物及ビ四国迄ノ出版會社設立ノ如ク自地方向ツテ出発シタリ

一馬場田口ハ廣林隊各一体ニ余程ノ安水戸地方自由党負ハ託セザリシ由馬場薫負丈ケハ其儘ナリ田口ハ未ダ廣負ハ全ク除名スベシトノコトナリノ

一九州改進党會議ノ如キハ東京ヲ差越シタル林正明筑紫熊雄ノ両名ハ全ク其會議ニ出席スルヲモ許サヾリシ由之レハ以テ別ニ中完加盟シ

居リタル故ヲ以テノミナリト云フ柏田盛文林二郎
笠郡龍雄ノ二名ハ已ニ除名スヘシト發言セシ
者モ有之ト云フ
一大阪地方ニ憲政進党ヲ河津祐介長崎ヘ四郎
越シ四党ト如何政進党ト四盟ヲ云ヒ合シタル所
如何ニ党員ヲハ四盟ハ出ル可リトノ通答ニ及ヒ
タリ

内閣

大阪府警察部長電報
第二位ノ四通了ヘ
内務大輔上申
右
三條ニ政右

大阪府警察部長
山縣茨城県
石塚栃木県
井上群馬県
松方奈良県

大山巌殿
川村純義殿
福島九成殿
伊東祐亨殿

大坂府自由党松木正守被兇之始末上申書
貴官より可然御批達有之度此段申進候
也

明治十五年十一月廿三日　警保局長田辺良顕

内閣書記官長井上毅殿

大坂府自由党松木正守行兇人之始末尚亦
別紙之通該府知事ヨリ申報候ニ付此段
上申候也

明治十五年十一月廿三日　内務卿山田顯義

大政大臣三條實美殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

行政人横方要三郎ハ年齢廿九年ニシテ岡山縣下阿波国美馬郡
猪尾村士族ニシテ文部省直轄大阪師範学校ニ入リ三四年已前
卒業セシモノニテ面ヲ文学モヲリ知来ル所ノ趣旨ニ
記者トヲリ又ハ存命ノ書記ニ住ハシ抔ヲ中迫来世上風
例ニ連レ自由民権ヲ唱ヒ彼ノ主意ハ自由党ノ全日一陽
ニ熱心尽力シ来リ播州姫路辺ニ在リテ政論ニ奔走シ先ツ流
激跡暴ノ深ク負ル所生ンガ家自ナル当大阪ニ来リ新聞
社ヘ入ラントヲ望ミ既ニ分人ナル日社員何郡宮ノ八ノ紹介ニ依
リ該社ヘ入レ日ヘ其間昨日ノ変義ヲ待テシ内本月十六日午後
四時ヲ小久宮寺町ニ至テ日知一橋ニ於テ大阪自由党ノ自由
乗権論ノ名命ヲ受ケ新聞紙上ニ掲ケ其日ノ帰
人ノ伴ヒ市中徘徊ノ末我輩小弱ナル鶏肉店鳥松橋ニテ

酒食ノ際ニ科陳席ノ高人二名ト心易ク談ジ盛ニ
笑ヲ含ムヲ思ヒ立チ比二名ト共ニ笑ヲ時弦ントチ落ル
時迫チ笑ヲ大提灯ト変シ出法人所業当惑シ教人ヲ
恐怖リ小酒宴ヲ罪カントセル隙ナリシカ只内流涙多士横
門理ヲ取ラントモノハ梅吉カ居テ大板碗大笑高ニ於テ
ノ知人ナレハ笑ヲ門理ニ待遇セラレ位チ恐怖リノ者共ニ面接
シ立テ名刺ヲ取交ハスヤウ彼ヲ叫ヲニ浅陽ノ半ハ暴キ
梅吉カ体ヲ外ル二名ノ高人ハ辞シ去リシモ梅吉ハ無
衆人ノ歓待ヲ受ケ遂ニ出法人当ノ宴席ニ列セリ梅吉ハ
者ニ愉快ニ飲酒スルノ風アリ宴酣ニ盛ナル中笑ヲ起ツ
テ演説スルアルヲ座中盛ニ踊拍ヲ始メシニ只演説セント
セシ高名士横則ハチ被見人松木氏等ハ之ニ位シタリケン
是レハ又梅吉ノ踊ヲ嫉ケ且ツ角力ヲ為ンヤウノ驕

動ニ乗シ松木ハ二回マテ以テ梅吉ノ咽喉ヲ締メタルヲ
梅吉大ニ怒レ如ク梅吉ノ携帯品ヲ取片付既ニ去ラントセシモ
優物ノ見ヘカンヲ彼此ヲ見回リ忍ヒ〳〵セル中梅吉門理ハ
ヲ用施ヒリトスフ又負松木ノ乗リ掛ラン様ニ談ス二階ニ通ケ登
リタレハ松木強テ之レヲ追ヒ矢庭ニ梅吉ノ後ヲ双手ヲ以テ
咽喉ヲ締メ既ニ呼吸ノ絶ヘントスルヲ自退実ニ極リ
後日ノ為メ益テ所為スル短カヲ見セナハ比暴行ヲ止ム
ヘシト思考シ強ニ帯スル抜キ身ヲ以テ松木ヲ突フルヤ松木ヲ咬
器ヲ持セルカト見ルヲ早シ素河ニモ拘ケリト答ヘシ為モナク
松木ハ如シ知ヘ度レリ性姿ヲ見ルニ在ル只ノ出血多シ
初メテ自分カ殺ロノ名松木ノ身体ニ觸レタリト覚ヘ驚
怪一方ナラサル中梅吉ハ自分ヲ刺セリト松木ノ高声ニ暴前
者驚リシ数人来集シ后チ出法ノ巡査ニ逮捕セラレタリトノ

申立ニテ実ニ之ナン様子ヨリ変シテ遺恨ハ自然殺意ノ
アリシニ紛ラサンヘシト思ヒ又目下高齢母妻ノ署ニ於テ
彼中ニハ決ス為ス所ナキ為敢ヘテ上申致ス仕
明治十五年十二月十八日 大阪府知事建野郷三郎

内務卿山田顕義殿

追テ現物ノ儀ハ及ビ本人ヨリ差出ノ書類ト依ルモ改メテ彼レ如カル類ノ覚流ニ紛ラサンヘシト確
信致シ居ル其筋ノ之レヲ類覚ノ制案ト為サシハ彼
覚ノ面目ニ関スルヲ以テ有カ此ノ彼ノ内幕ニ於テ類リ
ト深義セン様ニ致シ度仕候中深

第肆拾壹號

別紙内務卿上申入回覧候也

明治十五年十二月廿五日 三條太政大臣

右大臣殿

大木参議殿
山縣参議殿
西郷参議殿
井上参議殿

[illegible]大浦警部殿

電報之寫送高橋

二月九日　　内務省警保局

[illegible]大山[illegible]

大木[illegible]

西[illegible]

井上[illegible]

桂[illegible]

大山[illegible]

川村[illegible]

[illegible]

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

秘

八月四日板記

一此程大坂表ニテ開會セン関西懇親會（在坂之憲政党員ノ企ツル所ニ係ル由）ニ板垣退今モ加ハリ散會ノ後退今ハ土佐高知ニ帰リ再ヒ立志社ノ衰運ヲ挽回スルニ勉ムル目的ニテ近日出発スル筈ニ打語リタル由

○左ノ一項ハ今日ノ會ヲ待テ報スベキナレモ至テ大関係アルヲ測ルヘカラサルヲ以テ一寸為念書キシルセシモノナリ何レ會ノ上明細ニ

此話可申上候

一肥藤壬生雄小勝俊吉宮内忠道生徒七八名ノ壮士ハ評議シテ曰ク熟〻自由党ノ形勢ヲ考フルニ我党ノ社會ニ現出セシヨリ恥辱ヲ天下ニ流カスヿ一ニシテ足ラス例ヘハ総理ノ相原ニ刺サレタル時ノ仲ノ好キ福島ノ今回ノ事件即チ高等法院ヲ開キタル件ノ如キ何レモ兒戯ニ類スル所業ノミニテ天下公衆ニ向テ赤面ノ次第ナリ然ル上ハ我〻斯迄身命ヲ擲チ暗殺狙撃ノ挙ニ出テ目覚シキ挙ヲナシテ以テ自由ノ大義ヲ天下ニ伸ヘサル可ラストナシ今日極〻精神ノ慥ナル者ヲ集メ評議スル由尤モレハ高知人ハナル丈省ク見込ナリト而メモレハ議ハ暗ニ退分カ時勢ノ切迫ナルヲ説キテ数唆ニ出テタルナリト富カニ云フモノアレ共伝ニ聞ク兎角ニ東北人ハ暗殺ノ快挙ヲナス外別ニ妙策ナシト常〻物語リ居ル由ナレハ此方ハ先日ノ長元寺連ハ少〻違ヒ或ハ斯様ノ変行ヲモ知ルヘカラスト

別紙ハ以密封
令閲覧候也
十六年 月 日
内閣書記官

対馬大国殿
壱岐大国殿
丹後国与謝郡
山陰道与謝郡
伊勢国与謝郡
西郷与謝郡
丹上 与謝郡
山田 与謝郡
那波 与謝郡
大山 与謝郡

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

芳政大田殿
尾大田殿
丹本弐百議ノ
山影弐百議ノ
伊藤弐百議ノ
西郷弐百議ノ
丹上弐百議ノ
山田弐百議ノ
柳弐百議ノ
大山弐百議ノ
川村弐百議ノ
神弐百議ノ
桂弐百議ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十五年十月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

別帋建野大阪府知事ヨリノ報告ニ

立憲改進党ノ景況情実等ノ事申出候也

明治十五年十月十九日　内務卿山田顕義

太政大臣三條実美殿

第五十九報

三重改進黨地方自治ハ從来紀州ニ於テ盛ニ聞及ビ居ル所ニシテ近世帝政自由友党ノ勢力長ノ見ノナルニヤ不振ニ乘シ一層黨勢ヲ擴張シ益ニ地方党員須日此自治言ノ手續ヲ定メ益ニ地方党員ト人関係ノ致密ナラシムルニ盡力セル由既ニ別報ス而ハ本月下旬矢野文雄外数地同黨員某ハ軽案セシモノニシテ右ハ後ノ情況探知ノ上ハ存外得出ス為念改情報

明治十二年十月十三日　大阪府知事建野郷三

滋賀県令長谷勝間田稔殿

拜啓秋冷之節益々御清穆被遊不
相変光地に於ては国事の為め御盡力相成
党勢も漸次振興の事と存ず東京改
進党は依然堅固にて皆々一同持久忍耐の覺
悟にて其間に力を養ひ勢を蓄へ漸々歩を進めん
見込に有之先は去る四月芝の事会
大隈邸理及び野前島其他重立ち連中皆
一同多事に付持受の方面に心力を盡サル中ず
近日東京の重立ち党員中にて懇親の大会を開
き大隈邸理を招待セントの申合有之或島氏等
迄も盡力周旋に有之ず日限は多相分ラズ得と
多分来月末ナラシカト欲存ず定メテ盛会にて打解

会合セル（シト郷里ニ帰ル）ハ京下ノ近状ハ如何ニ申ス迄ニ及ハス

報知致候ハ追ヒ又多事ニ紛シ如何ニ

ノ次第ニ而致ハ時ニ不怠出国仕度存候

此度下ヲモ何卒ハ此ノ様子ハ知ラセ

ヲ及ヒ諸兄ノ助ニ因テ微社新聞モ大ニ勢ヲ

増シ此若シ異事ヲ生スルアラハ出国報ヲ致

ス宜

十月七日

○

朱圭 貴説致候ハ火ヲ見ルヲ

帝政党ノ解散セル原因ハ元来振ハスシテ従ニ立

又事第一ノ原因ナリ然シ乍政府モ則帝政党ナレハ

我ニハ帝政党ハ未タ依然トシテ存立スルモノト思フ

ナリ政府ハ薩長ノ軋轢暗ニ甚シ伊藤ノ如ク朝

政モ因人ハ今ニ勢力ナシ薩人ニ歴セラレ今日ノ政府

ノ模様ハ暴天ノ如シ早晩雨ニナルカ風ニナルカ何事

カ起ラルヲ得ス併シ起ルトモ我ニノ大目的ヲ直ニ達

スル様ノ事ハ起ラス唯端緒トハナルヘキナリ

板垣ハ金ナキカ故土佐ニ帰ル人ハ名ト云フ従事ニ付

一時ノ自由党ノ狂奔ヲ抑ヘ今ハ青モナリ奥モ

ナシ勢力ノ極ニテ解散ニ瀕スルト云フ風説事ナリ

自由新聞ハ当時ハ四百枚ヲ売ル中其内四百

ハ府県ニテ枚有下ナリ昨年ナ百ヲ売ル四月之

時年ノ計算ヲ探リ得シニ現収入九千八百五十円

七枚売ニテ現物壱万四千四百七拾七金也

故ニ僅カニ手ヨリ四五百円金ニ不足ヲ生シタリ之ヲ一月ニ割シハ毎月七百円餘リ不足ナリ而メ新紙ハ僅カ千四百枚ノ数ニ減ス持人等シ苦ムモ無理ナラスト云フヘシ故ニ重ナル党員四五名ノ東海道並陸道中山道ニ派出シテ醵金ヲ促ス為メニ出向ヲ其筆ハ一ノ銀行ヲ設ケテ二十万円資本ヲ募ルト云フナシ此二十萬円ハオロカ二千円モ実額ハ覚束ナカルヘシ且金ノ内ヲ月ニ板垣氏ニ百円ヲ幹事ニ五十円ヲ送ラントノ中ニ三ニテ衆員之レヲ不可トスルモノ多シト聞ク東海道駿豆ノ間ニ於テ募金貧窮星某ハ勝某カ地方貧ト募金ノ事ニテ宣敷ノ致タリトノ如部ニ留主スル齊藤壬生雄ノ許ヨリ諸方ヲリノ通信ニハ何モ金カ寄ラスト云ヒ来ル由ニ又自由新聞ハ何事モ指造シテ量キ基シキハ改進党ノ大隈君カ更ニ一大新聞ヲ起ストカ河野君ハ元老院ニ出ルトカ成島カ脱党スルトカ餘リ顕形モナキ事ヲ書キ出シ加党中ノ壬生ナル人ニハ皆笑ヒ居中ニ帝政ハ解キ自由ハ衰廃ス今日ニテハ独リ魏然タルモノハ我改進党ノミ蓋シ亦タ都鄙各地諸兄ノ奮勉ニ因ル者ナルヘシ

近来ハ何部カ地方分之ノ改進党中ニテ各地トモ中央ニ併論大ニ盛ナリ

却説ハ無名ニテ封皮ヘハ東京両国報知社矢野文雄トアリ

秘密探偵書信

高流乃也

十月十九日

内務省

大臣殿

左大臣殿

右大臣殿

山縣参議殿

伊藤参議殿

井上参議殿

山田参議殿

松方参議殿

大山参議殿

川村参議殿

西郷参議殿

佐々木参議殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

追時大阪新報社員が一種の結合を企て既に其規約等を編成したれば大阪府知事より其筋へ届出の為め今日出仕せり也

明治二年[illegible]月[illegible]日　勝海舟

大政大臣三條實美殿

第七号

大阪新報社員加藤勝海ヲ以テ我輿ヲ
称シ恣横ヲ逞クシ新聞紙社説文
面ニ他邦者曹ノ為ニ者ノ吉凶ヲ占フヲ企テ
民心ヲ惑ハシ政ノ治ヲ害スル事甚タ
多シ其ノ為ニ義国ノ難ヲ救フ者ハ
如何ナル人ニ在リヤ所以ノ者何ソ
多ク之ヲ誘ヒ之ヲ説ク者ハ
ナリ
此ノ如キ者ハ邪教ノ
三年十月日 大阪鎮台
兵隊長 伊藤[illegible]
正ノ[illegible]

英部長より之を振る弱者を為す論

日盟規約論

言

吉人曰志者風トシテ心ヲ以テ兵事ニ事業有用ナル国運ノ振ハサルヲ慨シ人権ノ伸ヒサルヲ憤リ為ニ日ク義ノ船ヲ漕ヒ人心政治ノ改良ヲ企テ国運ノ旺盛ヲシ人権ノ伸張セシムルヲ期スルヲ以テ而シテ政治改良ハ国家ノ主義ニ属シ一朝一夕ニ成ル可キ事ニ非ラス而シテ之ヲ成就スルノ間ニ於テ有志ノ士ハ既ニ其ノ事業ノ為ニ犯難ヲ冒スヲ免レサル者ナリ或ハ或ハ地獄ニ落ツルヲ免レサルヲ以テ之ヲ可ナリトス蓋シ有志ノ士ハ難ヲ冒シ銃多ノ中酸ヲ嘗メ八方志者ノ助ヲ出ス事ヲ許スヲ先ナリ豫ノ如クナル可シ而シテ吉人ハ志ヲ以テ他人ノ事業ヲ助ケ之ヲ成ス如キ事ハ吉人ノ志ハ其ノ業ヲ成ス如ク吉人日志者ハ初メヨリ主義ヲ執リ之レニ向カフ日志者ハ之ヲ義ニ進ム者アルヲ以テ之ヲ知ルヲ

[illegible]ニヤ且夫諸ヶ国士者必徴ト者人日之出生早晩ハ[illegible]ナカランヤ蓋
[illegible]者角ノ智能ハ[illegible]ハ長短ヨリ人ヲ選ミ[illegible]
[illegible]ヲ長ノモノ人ノ功績ヲ論ス況ヤ三ノ戦ヲ一ニシ協
力以国事ニ尽力シタルハ政府ヲ[illegible]者人日之出ル者ハ碑
ヲ建テ[illegible]ヲ長ノ功績ヲ載セ傳ヘシヨリ明ニ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]者カ[illegible]者ヲ[illegible]ノ資ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ハ[illegible]者人日之者カ[illegible]
日之者カ一[illegible]ニ集合シ一[illegible]ノ解[illegible]如キ軽[illegible]者[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]者[illegible]
[illegible]良ノ[illegible]国[illegible]ヨリ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]者ハ常ニ之ヲ[illegible]ノ[illegible]紙
[illegible]ヲ[illegible]ノトス故ニ[illegible]
第一條 日盟人[illegible]ハ[illegible]ノ如シ

送與シ且石神ヲ建立シテ其人ノ功績ヲ不朽ニ
傳フ可シ

但石神代ハ一株ニ付五四ト定ム

第二條 同盟人ハ其他非常ノ災厄ニ遭
フ者ハ一株ニ付金四拾五四ノ美典ヲ送可シ

第三條 不幸ニシテ公共ノ事ノ為メニ誤テ刑罰ニ解
ル人モノアル者ハ其妻子ヲ養育ス可シ

第四條 五大阪ノ一新ヲ社ノ者党ノ機関ト定メ社
カ法律ニ解シ違ヒ又ハ他ノ犯刑ニ遭ヒタル者
之ヲ扶持ス可シ

第五條 関西ノ吾党貧カ為ニ大会ノ開ノ事アリテハ此
同盟員ノ金貸トシテ金百圓ヲ支辯ス可シ

第六條 此ノ目的ヲ達セン為ノ同盟員ヲ四百株ノ義

集シ八ケ年間月々一株毎ニ金五拾銭ノ醵出ス
可シ
但同盟員ノ便宜ニ依リ一株ニ付一時ニ金ニ拾円ノ
出金スル片ハ八ケ年間月々五拾銭ノ出金ニ代フ
ヲ得ヘシ
第七条 一ケ年間ノ消費定額金八万ノ如シ
一金二百五拾円 向ケ年間毎歳死亡スル者ト
見積ル予算料
一金七拾五円 五人扶持建之代
一金百円 困難者扶助金及ビ刑人妻子養
育料
一金百円
一金百円 雑費

一金七拾五円 雑費
一金六百円 新聞扶助金
右合計金壱千弐百円
但小費用ハ五ニ流用スルヲ得
第八条 第七条ニ定メタル消費額ニ超過スルヲ
ハ更ニ臨時協議ヲ経同盟員ノ承諾ヲ経テ増量
スルヲモアル可シ
第九条 八ケ年ノ後ハ更ニ総会議ヲ開キテ方法ヲ改
正シ別命ニ習クル残金壱万五千ヒ拾五円ノ内金ノ
利子ヲハラ消費金ニ充ル者トス
第十条 金額取扱委員ノ公撰シ事務ヲ委置セ
ム
但任期ハ一ケ年トシ毎年大会ノ時決敵之

代スヘシ初年ハ抽籤ノ等退職者ヲ定ム

第十一條　四名ノ委員中ヲ五名ノ撰法ヲ以テ主任者一名ヲ撰ミ事務ノ專任セシム

但委員ハ時々監査スル者トス

第十二條　假リニ大阪府下東西北濱二丁目九番地明治

第十三條　便宜各地ニ在住委員ヲ置キ最寄用務

第十四條　事務取扱ニ関スル經費ハ之ヲ支辨ス可シ

第十五條　此規約ハ大命ノ節出ル所ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ改正スルヲ得ヘシ

發起人

内務卿内申

大坂新報社員等一種ノ結合ヲ企テ規約創定ノ儀

右供用覽候也

十六年十月十九日

内閣書記官

大政大臣

大坂新報社員等一統ノ
結合ヲ企テ規約創定ノ儀
右伺出置候也
十六年十月十九日
内閣書記官
大政大臣殿
参議
大蔵大臣殿
参議
山縣有朋殿
参議
伊藤博文殿
参議
井上馨殿
参議
松方正義殿
参議
大山巌殿
参議
川村純義殿
参議
黒田清隆殿
参議
伊藤博文殿

板垣退助上京之途次大阪ニ於テ自由党員等ニ為シタル談話之概畧別紙之通該府ヨリ申報候ニ付御含迄ニ内申候也

明治十六年十二月十九日　内務卿山田顕義

太政大臣三條實美殿

拓殖部即上京ノ条例ニ次ク当世ニ至テハ
為シ難キ者多ク既ニ器物紙通ハ中ト
知ル能ハサル要用ノ為ト雖トモ如何ニ
考フ可キ也

五年四月

明治五年六月廿九日 太政官ヨリ達

兵庫県伺 外国交際殿

青山ヶ丘ノ陸軍ハ仏ニ倣ヒ横須賀ニ海軍ハ英ニ倣ヒ
各〻主立タル者ハ六名位宛
横浜ノ要害ヲ守リ如ク
高田七郎ノ上京ハ出来ル者ハ奉公ニ出テ手ヲ尽シ
立家ヲ興サンヲ望ムナリトカ一応ノ私事ヲ述ベ細
ニ四方ヲ買キシテ行ク程度ノ情(神戸)ニ居ル様ニテ日刻
ノ訪ヒシニ今ヤ大阪ヨリ下ル俄ニ来阪シ来リ且刻
四ノ紙幅(函)ニ認メシニ長崎ノ光山ノ茅ヲ書
ハ大阪ノ口金ヲ面倒トカニ親ヲ語ヒ合ヒ何
ヒ大坂ニ私用ノ件ヲ以テ神戸ヲ立チ
山帆ノ船ニ乗ル様ニ御部屋ヲ出テ片岡、松
高先ヲ合ノ男ヲ乗ヲ乗ハ高セサル必ヲ高ヲ

上ハ官報ニ散見シ微ニシテ止マス殆ト未来ヲ知ラシム
トアテ切ニ陳ヘ先ツ行カス又ヨリハ寧ロ利益アラント思ヒ
考ヘ〔ソレヒヤ男ラレシ〕事ハ可トシ幸ニモ出掛ケタルナリ
神京ハ東ヲ二国ヲ一ツ算ナリ道路ハ東西セサレ
氏等ノ摂津ハ総画ヲ諭シアルモ可シ然レハ摂濃ヲ
ノ電報ニ依リ神戸ヨリ出掛ケラレンコトヲ沙汰セシム
兵庫ヨリ田舎ニアリテ静ニ各地ノ状況ヲ視ルニ関
ハ州カ和気郡又ハ丸亀ノ旅舎ハ土ヲ以テ板垣氏ト趣ヲ異ニセルカ如シト
氏ハ上野山陽山陰ノ如キ豆摂ハ評ニ繁忙ヲ極
ヘス皆ヲ政府ハ其人ヲ嘲リシテ政治ノ間ニ充テン
トシ云フヲ以テ若シ信ナラハ我々カ為ニ幸ヲ
業ムル言倍ナリテアラ然ルナリ其政党ノ社会ノ
手段ニ服シ条ニ憲法制定ニ法律改正ニ政府カ

我等ノ窃ニ察スルハ甚タ是レカ如ク明カナリ然ニ今ハ両
士族ヲ挨拶シ一面ハ英米ノ学者ヲ招キ政府ト書
ニ相談セシト思ヘリ云々
当地ニ憲政党ノ如キハ麻ク解党一説ヲ公言シ
進ンテ自己ノ主権ヲ失セシヨリ其党之レカ為ニ働ク
モノ甚タ少ナカラス之レ畢竟自力進取ノ精神ナキ所
為ナリ（民一般ハ口人カ陥落シタルノ如キ口上等ヲ執行委任セシカ如シ）是ヲ以テ法令ノ発布
有志者カ信念一致セス職分ヲ守ラス甚タ無判ニ
至ル連判帳ニ厳重ナリシニ乱ラス保存シ難
年ノ刷星ヲ経テ今モ民ニ帰ス組合ノ如キモノ形ヲ
上ノ結合ヲ為リ能クシ永続ニ従ヒ得ヘキニヤ
今者ノ如キ悟セリ看板ノ上ハ務メテ其ニ之ヲ
拡張シ各地ノ如キ同志モ僅ニ見ルナリ今ヤ努力

内務省

出行ヒ多クハ立寄ラズ而シテ帰ル人ノ噂ナシ
話ヲ聚ムル言ヒ慣フアルノ日出ノ準ト合日
ヲ設スルニ務メテ人ノ出シ又ハ紀ヲ浮カベ江戸
ヨリ先ツ浦ヲ入ルヽ方里レカラン船ハ芝ヲ
地山ヨリ池ヒ天地別邸ヒ人ヨリ
出ヒ丹地方ヒ人北ヒアレハ往レ是繰アリ易
スカラン

中興雜

薩州島人子ジメ某ハ河野主一郎カ配下ノ人ヨリ神
戸ヨリ余ヲ尾シテ当地ニ来リ面会セシカ同人ノ
話ニ接シハ国地ノ三洲社ヲ置テ世評ハ大速ニテ甚タ
来物毋論ノト思ハン彼ノ大久保カ西郷ノ刺客ヲ放テリ
ト ノ説ハ真実ニシテ今ヨリ務メテ之レヲ世ニ公ニシ政府ノ
卓為手段ヲ明カサシ斯ノ拙者千万ノ政府ナレハ世モ我々カ
服従シ能ハサンヲリ君若シ甚刺客ニ係ル而務ヲ知ラシトナ
ラハ書面ヲ以テ申告スヘシト之断言セリ今夜ハ原平(大川町)
ニ止宿セン筆ニ自暇アラハ訪ハルヘシ必ス余カ話ニ勝ル
益話アラント思考スヽ
余カ頃日来ノ見込ト云ヒ仮令王家ノ主義ヲ変シ退ヒ
自由ノ風潮ニ動クノ有様ハ余カ甚タ満足ノ至リ新会ハ
先ツ来ラサル所ニ西カ東カ早晩田舎ヨリ何ヲカ為シ

御ん之お遣ナし其時ニ当り呂夕警ヲ止ムヒノ見ヒナラハ今ヨリ断然政党扱ニ手出シセサんニ如カサんナリ当地ノ如キハ地形ヨリ言フモ何ヲモ造出ノ地ニ非ラス必スヤ他ニ応スルヲ望ノ汲々んモノト為ス者ニ之カ用意ナクンハ立ん難カラサルナリ（此条甚タ穏カナラス、変礼ノ嫌スんカ如キ疑ヒ多シ）

別紙内務卿内申書借覧ス也

明治十六年十月廿日　内閣書記官

太政大臣三條實美殿
左大臣熾仁親王殿
参議大木喬任殿

東京板垣印

建白書原文也

明治十六年十月廿日　内閣書記官

太政大臣三條實美殿
左大臣熾仁親王殿
參議大木喬任殿
參議山縣有朋殿
參議伊藤博文殿
參議西郷從道殿
參議井上馨殿
參議山田顯義殿
參議松方正義殿
參議大山巖殿
參議川村純義殿
參議福岡孝弟殿
參議佐々木高行殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

初めんこと志
ヨリ断然政
地形ヨリ之
等第ノ沿ス
ルナリ（此ヲ

大阪ニ於テ自由党會議ノ概況

各地方党員総代及有志者會議　凡百余名

其東立モノ

東京板垣退介　高知片岡健吉
盟山小林樟雄　愛知内藤魯一
島根西山志澄　島根小原鉞臣
大和土倉庄三郎　愛媛鈴木傳五郎

一十月十三日相撲館（大阪府下ニ集リ）ニ集リ内會議ヲ開キタル地ヨリ豫約ノ有膳金ヲ出リ、ルヲ以テ総体ノ景況此説ニ帰スルノ頃ヲ現セリ依テ將来各地方ヨリ出金シ得ラルヲ実額ヲ銘々申出サシメ其多少ニ依リ鮮党スルヲ否ヲ総理ニ報スルヲ為セリ

元来本邦ノ費用ハ内実高知人ヲ養育スル姿ニテ無益ナリトナス人ノ論者社々ヲ非ス板垣等亦之ヲ聞キ頗ル憤慨シ姑ラク郷里ニ避ケ世人ノ心算ヲ非サルカ如シト云ノ

一同廿四日各地方出金額ヲ中報ミタル二総計千百五拾余圓ナリ本部一ケ年ノ実費壱万二千圓ヲ要ス迚モ維持スル能ハス鮮党ノ外ナシトノ衆議

一帰ル小林樟雄及東海道ノ党員ハ頗ル土佐人及ヒ本部ノ役員ヲ忌ミ現今ノ役員ヲ改撰シ運動ノ方法ヲ改メサレハ前約ノ預膳金ヲモ一切出シ難シト迫公言セリト

一同日八ヒ板垣相撲館ニ出席シ総理ノ任ニ当リテヨリノ経歴洋行後ノ感覚地方出金ノ無キヨリ運動ノ自由ナラサルヿ及ヒ今回総理ノ辞退ニ一党員トノリテ党務ヲ助ケントス故ストノ意ヲ演ヘ又本會議紫トシテ左ノ三項ヲ述ヘタリ

一更ニ総理ヲ撰ムヿ　二本部ヲ鮮キ自由新聞社ト有一館ト　東京筆記学校
三本部及ヒ新聞社有一館トモ総テ止メ断然解散スルカノヿ

各地方党員総代大阪ニ於テ自由党會議ノ概況

各地方党員総代及有志参會者凡百余名

其重立テ

東京 板垣退介　岡山 小林樟雄　高知 西山志澄　大和 土倉庄三郎

高知 片岡健吉　愛知 内藤魯一　島根 小原鐵臣　[illegible] 鈴木傳五郎

東京 植木枝盛　石川 稲垣示　丹波 法貴発　神奈川 佐藤貞幹

東京 高橋基一　愛媛 藤野政高　岐阜 鵜飼節郎　[illegible] 平山英夫

一 十月廿三日相謀館（[illegible]）ニ集リ内會議ヲ開キタルニ日今ノ有様ニテ各地ヨリ後約ノ負擔金ヲ出サヽルケハ迚モ維持スル能ハス解党スルノ外ノシト發言者ノ働畑ノリ総体ノ景況此説ニ帰スルノ頃ヲ規セリ依テ持來各地方ヨリ出金レ渇ラルヽ実額ヲ銘々申出シメ其多少ニ依リ解党スルヤ否ヲ総理ニ報スルヿト為セリ元来本部ノ費用ハ内実高知人ヲ養育スル姿ニテ無益ナリトナスノ論者往々ナキニ非ス板垣等亦之ヲ聞キ頗ル憤懣シ姑ラク郷里ニ避ケ世人ノ感ヲ醒サシトノ心算ナキニ非サルカ如シト云フ

一 同廿四日各地方出金額ヲ申報シタルニ総計千百五拾余圓ナリ本部一ケ年ノ実費吉方ニ千圓ヲ要ス迚モ維持スル能ハス解党ノ外ナシトノ衆議ニ帰シタリ

一 小林樟雄及東海道ノ党員ハ頗ル土佐人及ヒ本部ノ役員ヲ忌ミ現今ノ役員ヲ改撰シ運動ノ方法ヲ改メサレハ前約ノ負擔金ヲモ一切出シ難シト迫公言セリト

一 同廿六日板垣猶輝館ニ出席シ総理ノ任ニ当リテヨリノ経歴洋行後ノ感党地方出金ノ無キヨリ運動ノ自由ナラサルヿ及ヒ今回総理ヲ辞退シ一党員トナリテ党務ヲ助ケント欲ストノ意ヲ演ヘ又本會議案トシテ左ノ三項ヲ述ヘタリ

一 更ニ総理ヲ撰ムヿ

二 本部ヲ解キ自由新聞社ト有一館（東京築地新栄町武術練習所）

三 本部及ヒ新聞社有一館トモ総テ止メ断然解党スルカノヿ

ヨリ断然政
地形ヨリ
ルナリ

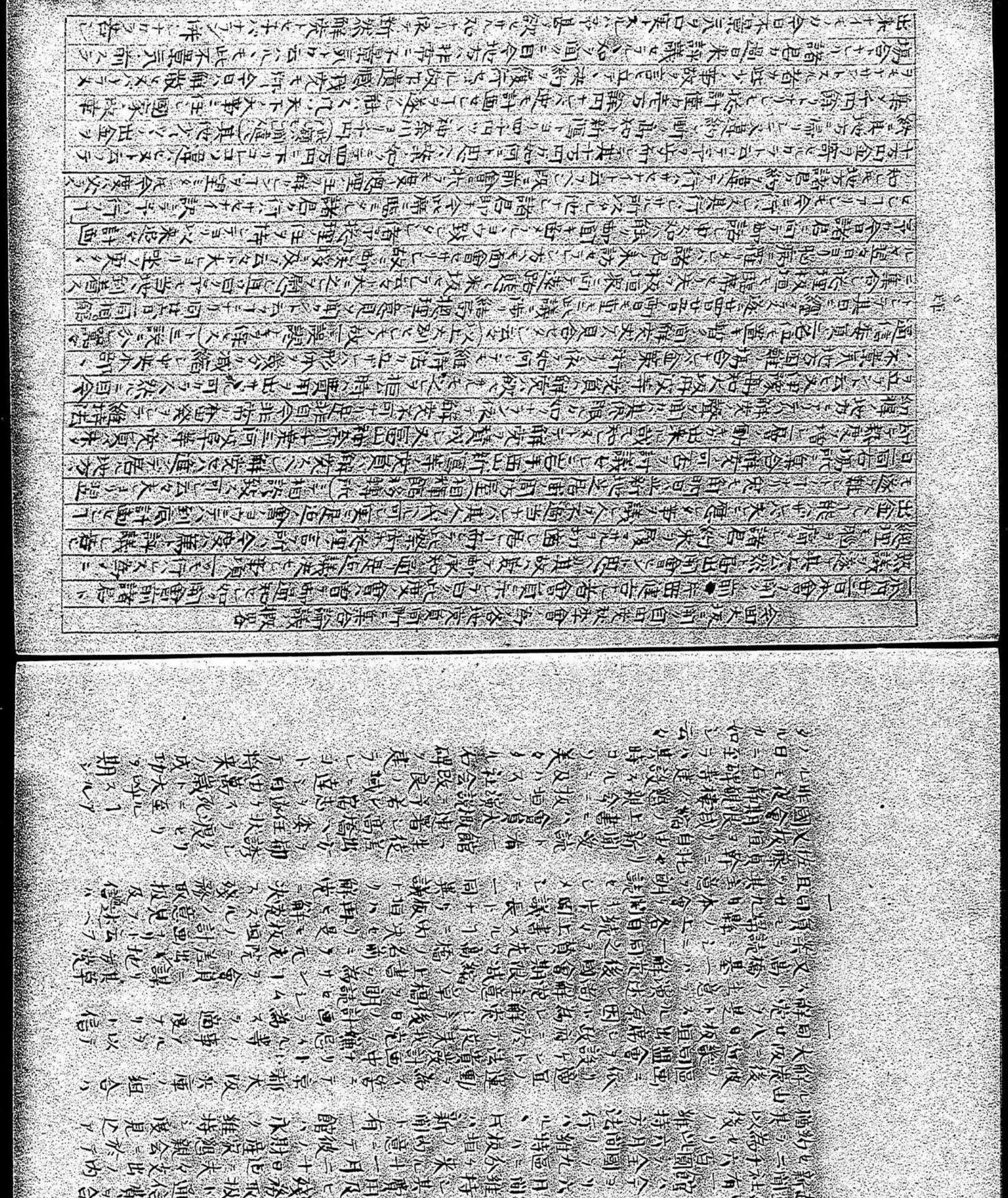
内閣書記官

省

又土倉庄三郎鈴木傳五郎等敬起ニテ別ニ財産家ノ總親会ヲ開キ板垣ヲ
出會セントスルノ依テ板垣ヲ東京ノ竹内綱ヘ電報シ其来阪ヲ促セリ
一同廿七日前日板垣ノ意見三項ヲ議案トシ仮リニ解党ノ可否ヲ議シ長トナリ
可否ヲ議シタルニ解党ノ在大阪ノ会員ト外一名ノ除キ総
起立セリ
新聞社有一館ハ今ヨリ六月間維持シ其費用及ヒ残務取扱ト通信費ヲ合
セ二千六百圓ヲ全國ヲ九區ニ分チ来ル十一月二十日迄ニ夫々支出ノ内
約ヲ為セリ此六月間ノ維持ハ板垣ノ内意ニテ彼ノ財産家總親会ニ於テ
猶其以後ノ維持方法行ハルヽ日ハ新聞ト有一館ハ永ク維持シ度見込ア
ル由
解党後彼ノ區画ニ依リ適宜ノ運動ヲ為ス筈ニテ京都大阪兵庫ノ組合ハ
大阪ニ近畿同盟會ヲ設ケント法貴族計画中ナリト
一同廿八日板垣出席シ政府ニ於テ従来我党ヲ嫌忌スル事ノ事アルヲ以テ
解党ヲ是トスル原因ト為レ解党ヲ従後日ノ計画ヲ為スヲ適度ナリト信
スト主意ヲ演述シ尚解党主意ノ草稿ヲ朗読セリ
又島橋基一ハ解党後國會期限減縮ノ上書ヲ為サンヲ會員ニ謀リ其草
案ヲ読ミ一同之ヲ賛シ先ツ高橋ノ名前ニテ元老院ニ差出シ地方党
員モ帰縣ノ上各自続々上書スルヲ内決セリ是モ板垣ノ計画ヲリト云フ
一同廿九日本會ヲ開キ片岡議長トナリ板垣ハ再ヒ解党ノ意見ヲ述ヘ
且ツ其主意ヲ朗読セシメシニ一同異議トリ解党ニ決ス残務取扱及信ハ
佐藤貞幹ニ托セリ
又板垣ヲ自由新聞愛読ト有一館ハ生徒養出方ヲ勧誘シ々リ
國會期限減縮ノ上書ニハ會員大概連署シ高橋ハ委任状ヲ渡セリ
昨夜静観楼ノ總親会ニハ板垣ノ演説ニ予若シ宿志ヲ遂ラスシテ死ニ至ルトアル
ルモ石碑ヲ建設スルニ及ハス社会改良ノ域ニ達シ自由萬歳ト大呼スル
ノ日ニ至ラハ其時コソ美々タル石碑ヲ建ラレヨトテ將来ノ成功ヲ期シ
タルカ如シ云々

今回大阪ニ開ク自由党秋季會ニ各地党員間所ニ集合論議概略

一廿四廿二日本會ノ開ク前ニ片岡建吉ハ旨會員ニ向テ曰ク此度ノ會ハ曾ヲ如何ト問ハ諸君ト
熟議ノ末ノ其上公然ト是迄開會ヲ以テ其故ハ我ヲ知ル事ヲ是迄議決セ事実一ツモ行ハス為メニ
總理ヲ煩ラシ諸君ノ約束ヲ履マルヲ切歯シ居リ而シテ此際活ル拠理ヲ言ヲ所ハ今度ハ篤ト評議シ各々
出金シ一能ハサル人ニ憂ヲ事ヲ議シ人ヲ不適当ナレハ其人ヲ代ヘ可シ実ニ是迄會ヨリ内ニテハ到底計画セシ事
モ遂ヲ難ケレトモ今ヨリ実ニ前明日ハ新地芝居前ノ周防屋旅館ニ於テ相談致ス可シ云々大ヨリ是
日一同右場所ニ集合解党ノ可否ヲ討議セシニ岩手西山新聞等ノ党員ハ解党ヲ直チ居ル地方ハ
如テ熱度ヲ増シ一層ノ働キヲ出来ル或テ知ルヲ解党ノ賛成ニ又富山神奈川千葉三河以下等ノ党員ハ解党
前解ノ地方ニ於テハ解党ノ説ヲ聞カハ其侯眠ハカ如ク知ラスシテ解党不可ノ是非自今非常ノ奮発ヲ維持ス
ヲ以テ云ヒ又ハ豫算知ル大反ハ等ノ党員ハ解党ハ欲ス可シ然ニ同今
・不景気ハ地方ハ難ノ場合ニハ金策ハ行ヲ如何ニテ維持ハ出サヽ可ラス然ルニ中央本部ノ
通信費ハ二百円ト雖ノ解党ヲ見合ヲ云々以上大別ニ分ケ故ニ誤認シ居ルヲ不審ニ訳ニハ
トシテ其日ニ繰ラヘ逐ニ甘日ヲ昔ノ西日ニ至ニ此議ニ陳ノ結局拠理意見ノ聞ノ
ニ集合シ拠理ノ理ヲ聞ハ拠理ノ言ヲ所ハ板垣ノ所ニテ遂ニ延ル来板セシ云々大ニ之ヲ尉ノ且ツ四ツ当ノ例ノ
ルヲ遅ヲ日ヨリ聴取ニ陳ヲシハ諸君ノ来訪セシ方ヘ面會セサリシ故ニ御実ヲ及ヲ云々大ニ当ノ生ノ
予カ今日諸君ニ向テ御話シ申ス如ハ触ル御聞キ為メニ諸君ノ計画
セシ一ツリシモ今ニ行ハ其行ハサル所ヲ以テ諸君ノ訳ニ十八行
知レ地方諸君カ約ヲ違ヘテ行ハサルトハ云ヘ既ニ前會ニ於テ諸君ノ度ヲ拠理ノ生ノ解ニ
十万円金ノ寄セカタ百ニテ十万ノ上ノ所ニ其十万円ハ何ニ用ヒ度ハ四万円ニ下リ四万ハ
約ニ其地方ニ居リ諸君ノ約ニ違ヘ行ハサルトハ云ヘ既ニ前會ニ於テ諸君ノ度ヲ拠理ノ生ノ解ニ
其ヲ千円ト云ヒ拠理ノ壱万円ハ此ヲ計画ト云ヒ壱万円ハ此ヲ計画ト云ヒ其他ノ少ヲ出金ヲ
ヨリ拠理ノ者ノ此少ノ事故ノ言ヒ立テ、後約ノ復行ヲ日ヲ今日ニ日今拠理ノ
場合ヲ拠理ノ諸君カ過日来評議セシ如ハ此ハ不量ニ一同
出来ヲ諸君ヲ今日ト宗ニ天ヲ口実トスルハ今日ハ出欲ヲ解党ヲ



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

自由党解党ノ義届出

今日大阪ニテ自由党大会ヲ開設
ス解党ノ議決ヲ為セル情況大阪府ヨリ
報告ノ旨ニ付別紙抜書録送合此段
申伺也

明治七年十月三十日　司法卿山縣有朋

左大臣熾仁親王殿

豫而大和ノ戸倉氏三郎ヲ相談ノ上自由党中ノ資産家ヨリ讃岐ノ鎌木県立則久保則三郎其他決シテ
何ノ要件曾社ノ起ス見込ニテト
右文位ノ論中ニ出ル処ノ取締リノ上公然ト福岡ノ会議ノ開ノヨウニ致度実ハ会議ノ開リテ及
ハシシニ大ニ不都ノ人有ニテハ公然開会ス方ヨリシテ俄ニ開ケタトテホンノ前次可右大ノ議ス位
ト致度ニ付ト云ヒ由
世日、長曾ハ解党ニ付相談リ遂ニ拾人ノ相談館ニ集会ヨリ
一幹事佐藤貞幹話ハ本部会計ノ方ヲ整理セシ人金出ノ分ハ五万円ハ紙幣ノ分ハ金ノ分ハ紙幣ノ程ハ是ノ用ヒシ
其他出金内数分残リ居ハリ寄附金ハ内分ハ昨年計八千円紙幣ノ分ハ金ノ分ハ紙幣ノ程ハ是ノ用ヒシ
又一時特別ニ臣人話帯ニ政理ニ言ヒ居ハ政府ハ吉党ノ為厳重ニ束縛法ヲ設ケ出ハ若
解ノ大ニ駁ナリト一時完ノ解リ上ハナラヌ日ヲ云ヒシ知ハ云々
曾員ハ中ノ曰角党ハ東京新聞自由新聞社内通信委員ノ拾人ハ成ハ各地ハ此ノ一層隊金千ノ人ハ云々又曾ノ自今政府探偵ノ層厳密ニ入ナラン故ニ
五千人者ハ成ハ各地ハ此ノ一層隊金千ノ人ハ云々又曾ノ自今政府探偵ノ層厳密ニ入ナラン故ニ
コヽヲヨリモ速ニ手ノ回ハ密ニ内偵ノ探出ハ云々又云ノ今后政党員ハ可成注眼ノ着スルヨウ致度ニ本日本
ニテモ帰ノ者ニ居ハ官員ノ思ノ者ヲ以警察官ハ大ニ云ノ綱ノ人々又今後演説懇親会等ノ設ニ
テ来月ノ宴ノカヲ以云々
則チ解ノ次員ハ出言ノ上曾ハ諸ノ者ニ諸ノ取相請願ヲナスベシ政府若シ條例ノ人ノ説諭ニ採用ス
ヒ時機ヨリ脱ノ訴ノ退カヲ云ヒ死ス実今日ノ減相請願ヲナスノ日ハ人民感覚大ナラン民心ノ引キ
入ベシ今日ノ云々
一内藤書記ノ政城暴発弾ニ政府驚ク九町同ジテモ者ハ行ノテ告党ノ勢ノ如シ最早如
斯出津ノ適ヒ改正ニ付ハナラン又周書ノ解ノモ無理ニ意シテ開ラキ餘ハ必視シテハ却テ大害ヲ蒙ムト
云ヒ政府ノ怖ノ恐ノヨウ致度ニ云々
大木権平戦云ノ東京横浜間ハ貴頭ノ屋ハ来故ノ間ノ仕者ノ者ハ隙分行ベシ云々

自由党解党ノ為ニ付上申

自由党大会ノ開設
人員大阪ニ於テ
解党ノ議決ノ為ニ
報告ノ為ニ
別紙摘録書合此段
申上ル也

明治三年十月三日　内務卿 大久保利通 内務大輔 山縣有朋

左大臣熾仁親王殿

大坂ニ於テ自由党會議ノ概況

各地方党員総代及有志来會者 凡百餘名

其重立モノ

東京 板垣退介　高知 片岡健吉　東京 植木枝盛　東京 高橋基一

岩山 小林樟雄　愛知 内藤魯一　石川 稲垣示　愛媛 藤野政高

高知 西山志澄　島根 小原鉄臣　丹波 法貴発　岩手 鵜飼節郎

大和 土倉庄三郎　愛媛 鈴木儁卿　神奈川 佐藤貞幹　大坂住 長崎 平山英夫

一 十月廿三日相輝館（大坂府下曽根崎村ニ）集リ内會議ヲ開キタルニ

目今方ノ有様ニテ各地ヨリ豫約ノ員擔金ヲ出サヽルヽハ

迚モ維持スル能ハス解党スルノ外ナシト発言者（小林樟雄）

アリ総体ノ景況此説ニ帰スル傾ヲ現セリ

依テ将来各地方ヨリ出金シ得ラルヽ實額ヲ銘〻申出

サシメ其多少ニ依リ解党スルカ否ヲ総理ニ報スルヿト為セリ

元来本邦ノ費用ハ内実高知人ヲ養育スル姿ニテ
無益ナリトナスノ論者往々ナキニ非ス板垣等亦之ヲ
聞キ頗憤懣シ姑ク郷里ニ避ケ世人ノ惑ヲ醒サン
トノ心算ナキニ非サルカ如シト云フ

一同廿四日各地方出金額ヲ申報シタルニ総計千百五
拾余圓ナリ本部一ヶ年ノ実費壱万二千四ヲ要スル迚
モ維持スル能ハス鮮党ノ外ナシトノ衆議ニ帰シタリ
小林樟雄及東海道ノ党員ハ頗ル土佐人及ヒ本部ノ
役員ヲ忌ミ現今ノ役員ヲ改選シ運動ノ方法ヲ改
メサレハ前約ノ員擔金ヲモ一切出シ難シト迫公言
セリト

一同廿六日板垣相輝館ニ出席シ総理ノ任ニ当リテヨ
リノ経歴洋行ノ感覚地方出金ノ無キヨリ運動ノ自由

ナラサルヿ及ヒ今回総理ヲ辞退シ一党員トナリテ党
務ヲ助ケント欲ストノ意ヲ演ヘ又本會議案トシテ
左ノ三項ヲ述ヘタリ

一更ニ総理ヲ撰ムヿ　二本部ヲ鮮キ自由新聞社ト有
一館（東京築地開業所文武練習所）三本部及ヒ新聞社有一館トモ
総テ止メ断然解党スルカノヿ
又土倉庄三郎鈴木傳五郎等蔟起ニテ別ニ財産家
ノ愬親會ヲ開キ板垣モ出會セント云フ依テ板垣ヨ
リ東京竹内個ヘ電報シ其来坂ヲ促セリ

一同廿七日前日板垣ノ意見三項ヲ議案トシ仮リニ
片岡内藤ヲ議長トナリ可否ヲ議シタルニ鮮党ヲ可ト
スルモノ左大阪ノ負ト外一名ヲ除キ総起立タリ
新聞社有一館ハ今ヨリ六月間維持シ其費用及ヒ残務

取扱ヒ通信費ヲ合セ貳千六百圓ヲ全國ヲ九區ニ分チ
来ル十一月二十日迄ニ夫ゝ支出ノ内約ヲ為セリ此六月間ノ
維持ハ板垣ノ内意ニテ彼ノ財産家懇親會ニ於テ猶
其以後ノ維持方法行ハルヽトハ新聞ト有一館ハ永ク維
持シ度見込アル由
鮮党後彼ノ區画ニ依リ適宜ノ運動ヲ為スヿニテ京
都大阪兵庫ノ組合ハ大坂ニ近畿同盟會ヲ設ケント法貴
族計画中ナリト
一同廿八日板垣出席シ政府ニ於テ從来我党ヲ嫌忌スル
等ノ事アルヲ以テ鮮党ヲ見トスル原因ト為シ鮮党シテ
後日ノ計画ヲ為スヲ適度ナリト信ストノ主意ヲ演述シ
出鮮党主意ノ仙稿ヲ朗讀セシム
又高橋基一ハ鮮党後國會期限減縮ノ上書ヲ為サン

ヿヲ會員ニ謀リ其仙案ヲ讀ミシニ一同之ヲ賛シ先
ツ高橋ノ名前ニテ元老院ニ差出シ地方党員モ帰縣
ノ上各自續シ上書スルヿニ内決セリ是モ板垣ノ計画ト
リトスフ
一同廿九日本會ヲ開キ片岡議長トナリ板垣ハ再ヒ鮮党
スルノ意見ヲ述ベ且ツ其主意ヲ朗讀セシメシニ一同
異議ナク鮮党ニ決ス殘務取扱及通信ハ佐藤貞幹ニ
托セリ
又板垣ヨリ自由新聞愛読ト有一館ヘ生徒差出方ヲ
勸誘シタメリ
國會期限減縮ノ上書ニハ會員大概連署シ高橋ヘ
委任状ヲ渡セリ
昨夜静観楼ノ懇親會ニ板垣ノ演説ニ予若シ宿志ヲ

遂ケス死ニ至ルマアルモ石碑等建設スルニ及ハス社會
改良ノ域ニ達シ自由万歳ト大呼スルノ日ニ至ラハ
其時ヨリ美シメル石碑ヲ建ラレヨトテ将来ノ成功ヲ
期シタルカ如シ云シ

内務ノ内申 自由党解党ニ付

明治十七年十月四日　内閣書記官

太政大臣三條實美殿
左大臣熾仁親王殿
參議大木喬任殿
參議山縣有朋殿
參議伊藤博文殿
參議西郷從道殿
參議井上馨殿
參議山田顯義殿
參議佐佐木高行殿

内務一内申

自由党解党ニ付

明治十七年十月四日　内閣書記官

太政大臣三條實美殿
左大臣熾仁親王殿
參議　大木喬任殿
參議　山縣有朋殿
參議　伊藤博文殿
參議　西郷從道殿
參議　井上馨殿
參議　山田顯義殿
參議　松方正義殿
參議　川村純義殿
參議　福岡孝弟殿
參議　佐木高行殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/